

JR 西労組「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」

福知山線列車事故から 1 3 年、安全問題は個人ではなく組織の課題!!

福知山線列車事故から 1 3 年目にあたる 4 月 2 5 日、大阪リバーサイドホテルに於いて JR 西労組主催「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」が 3 0 0 名余の参加で開催された。ジェイアール・イーストユニオンから池田中央執行委員が参加した。

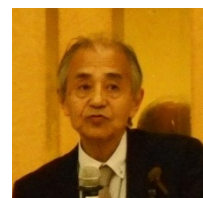


冒頭、主催者を代表して挨拶に立った JR 西労組・荻山委員長は、「安全とは何か、しっかり考えて欲しい、いくら時間が経過しても癒えることはない。という御遺族の声を胸に安全の確立を最優先課題として、組織の枠を越えて取り組んでいく」と、参加組合員に訴えた。

JR 連合を代表し、松岡会長は、「安全の確立を最優先で取り組んできたが、重大事故が多発している、道半ばである。危機感を持って労使共に安全を確立していく。ヒューマンエラーは結果であり原因ではない。重大労災ゼロをめざし、働く者の立場から安全を確立する取り組みを進めていく」と、運動の実践を求めた。



JR 西日本グループと JR 西労組が策定した、「鉄道安全考動計画 2 0 2 2」について「鉄道安全考動計画 2 0 2 2 の実践と安全の確立への期待」というテーマで大原記念労働科学研究所所長の酒井氏より基調講演を戴いた。酒井氏は、「安全の確立は個人ではなく、組織を上げて取り組んでいかなければならない。そこを労働組合に期待している。組合運動に参加することは、会社の目線と違う考えを学ぶ、これが非常に大事であり、若手に伝えていかなければいけない」と訴えた。



閉会の挨拶では、JR 西労組・上村書記長は、「決意を新にする集会であった。事故後は、社員でいることが恥ずかしい気持であった。これからは、胸を張って JR 西日本の社員と言えるよう、鉄道安全考動計画 2 0 2 2 を団結して取り組んでいく」と訴え、全員で安全の確立を構築していくことを誓い終了した。

集会終了後、集会の主催者や JR 連合の役員並びに多くの組合員が事故現場へ赴き、亡くなられた方々の御冥福をお祈りし、献花をおこなった。また、二度と大事故を繰り返さないために安全の確立を目指していくことを誓った。

JR 連合・JRE ユニオンは安全を最優先課題として取り組んでいます!